

第9回阿波おどり未来へつなぐ実行委員会 議事録

日時：令和4年12月27日（火） 15時～16時

場所：シビックセンターさくらホール（徳島市元町1丁目24番地アミコビル4階）

出席者：委員20名（内監事1名、オンライン参加4名）

オブザーバー3名

【開会】

○実行委員長挨拶

※寺内実行委員長から本日(12/27)をもって実行委員長を退任する旨の発言があり、会則に基づき、弘田副実行委員長、鈴田副実行委員長の順で代理を指名した。

その後、弘田副実行委員長から寺内氏に謝辞を述べるとともに、後任の実行委員長については今後の実行委員会において早急に決定することを説明した。

【議事】

○第1号議案「2023阿波おどり事業計画概要(案)」

(事務局説明)

(1) 開催概要について

- ・2023阿波おどりの開催規模は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、踊り連の参加及び集客が見通せない状況であることを踏まえ、今年（2022年）の阿波おどりと同程度の規模での開催を基本とし、日程は前夜祭を含め8月11日（金）から15日（火）までと考えている。
- ・屋内会場は、例年どおり前夜祭をアスティとくしま、選抜阿波おどりはあわぎんホールでの実施を予定している。両会場とも収容率は100%とする。また、選抜阿波おどりは、新たに特別指定席の設定を検討している。
- ・有料演舞場は、2022阿波おどりと同様に藍場浜演舞場、南内町演舞場の2会場とし、収容率は90%～100%での準備を考えている。
さらに、南内町演舞場は、踊りを進行方向正面から観覧できる特別観覧席の設置を考えている。
なお、演舞場の踊り込む入口付近に設けていたC席は、踊り連の鳴り物が並んで前列1、2列目のお客様が踊りを観覧できないという指摘を踏まえ、C席を指定席から自由席へと変更し、前列1、2列目は席を構えないこととする。
- ・無料演舞場は、2022阿波おどりと同様に両国本町及び新町橋の2会場、その他おどり広場等については、新町橋東おどり広場、両国橋南おどり広場、アミコドーム、シビックセンターさくらホールでの各会場で阿波おどりの実施を計画している。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、開催規模が変更となる場合があるが、開催の可

否を含め、実行委員会において判断することとする。

(2) 会場エリア

- ・交通規制区域については、今後関係機関と調整を行うこととする。

(3) 2023 阿波おどりへの応援

- ・2022 阿波おどりでは、数多くの法人、個人の皆様から協賛をいただいた。2023 阿波おどりにおいても、引き続き多くの皆様から応援をいただきたく、様々な形の応援メニューを設定する。ネーミングライツや基本協賛など今年の阿波おどりで設定した応援メニューに加え、清掃ボランティアなど、阿波おどりを支える活動に対する支援を新たに設定したいと考えている。

県内外の法人、個人の皆様に向けて、2023 阿波おどりへの応援をお願いします。

(4) チケット販売

- ・複数の旅行代理店との意見交換などにより、2022 阿波おどりでは新型コロナウイルス感染症の状況などにより、開催規模が直前まで決定しなかったこともあり、団体向けの阿波おどりの旅行商品の企画が困難であったと意見をいただいた。このご意見等を踏まえ、実行委員会において、2023 阿波おどりの開催計画等を早期に公表するとともに、団体チケットについても、例年より1カ月以上前倒しし、4月上旬から販売を開始することで準備を進めたい。
- ・販売方法についても、お客様の利便性の向上を図るため、インターネットやコンビニエンスストアでの販売の他、対面及び当日券販売所の設置を進めたい。なお、一般チケット販売の開始日や荒天等による中止の場合の対応については、例年どおりの対応としたい。

(5) 今後のスケジュール

- ・2023年3月下旬に第10回実行委員会を開催し、事業計画の詳細案をお示ししたい。
- ・踊り連の受付は、4月下旬を目標に、有料演舞場の受付を開始できるよう準備を進めるなど、できるだけ早い時期から阿波おどりの開催を盛り上げていけるよう取り組む。
- ・チケット関係は、チケットの料金体系や販売方法等について、3月の実行委員会においてお示しできるよう検討を進めていく。
- ・2023 阿波おどりポスターは、3月上旬までにポスターを選定し、3月の実行委員会において発表したい。団体チケットの販売開始と同時期にポスターが配布できるよう準備を進めていく。
- ・各種協賛は、3月の実行委員会終了後速やかに準備を整え、協賛の募集を開始したい。

(杉原委員)

- ・「阿波おどり」という言葉について、パンフレット等には平仮名で「おどり」と記載があるが、平仮名で統一するという認識でいいのか。

(事務局)

- ・過去からのことではあるが、徳島市の阿波おどりは「おどり」は平仮名表記としてきた。今後も平仮名表記とする予定である。

(杉原委員)

- ・お土産等で「おどり」を漢字で書いているものもあるため、「おどり」と統一するよう周知すべきではないか。香川県の「さぬきうどん」が商標登録されているように、「阿波おどり」も権利を主張すべきではないか。
- ・阿波おどり観光大使による宣伝効果は非常に大きかった。今後観光大使を選ぶ場合は、踊り子の中から選んで欲しい。女踊りの女性と男踊りの出来る女性ふたりが必要と思う。

(事務局)

- ・ご意見について検討していきたい。

(山田委員)

- ・前回の実行委員会で紺屋町演舞場を設置して欲しいとご意見があったが、その点に触れられていないので確認したい。
紺屋町演舞場は、毎日の公演開始前、終了後において、一部の栈敷の移動に時間がかかり、交通規制の調整が難しい部分がある。繁華街に近いため栈敷を設置して欲しいとの意見も多い。南越谷阿波踊りのおどりロードのように、栈敷を設置せずに両サイドの歩道に無料で観客が観覧することを検討してはどうか。
その場合、メリットとして周辺への経済波及効果はあるが、おどりロードは収益を生まないため、警備などの経費を実行委員会が負担しなければならないデメリットがある。
今年の阿波おどりは、無料演舞場やおどり広場に約6,000万円の費用がかかっているが、県・市からの補助金約3,000万円を運営に充てていた。補助金で足りない分はチケット収入等で補ってきた。
紺屋町を無料のおどりロードにするとさらに支出が増えることになるが、単独連や企業連が踊れる場所を確保する必要もあるので、それらを考慮して実行委員会で議論していただきたい。
- ・補助金以外にも紺屋町周辺の地元の協力体制をどの程度取れるかも重要である。次回実行委員会までに再検討していただきたい。
- ・補助金は収益を生まないものだけに充てたのか、それ以外も含むのかについて事務局から

回答をいただきたい。

(事務局)

- ・補助金に関しては、有料演舞場には充てておらず、無料演舞場、シャトルバス、観光案内所等の運営費に充てている。

(山田委員)

- ・紺屋町が収益を生まないおどりロード等となった場合、その費用がそのまま上乗せされるということか。

(事務局)

- ・そういうことになる。

(山田委員)

- ・本来、祭りは地域や自治体が協力し補填して運営していくものである。公費が多く出るのはどうかという意見もあるが、徳島市は、2000万円程の補助金である。補助事業を行うために補助金の倍の費用がかかるのであれば、有料演舞場のネーミングライツや協賛等で収益を増やしていかなければならない。
- ・来年の阿波おどりを成功させるためには徳島市がワンチームにならないといけない。今回のコロナ禍での開催についても様々な意見があった。物事を決める時は賛否両論あるものだが、昨今のマスコミを見ていると、阿波おどりに否定的な報道があったように思う。私の周りでは阿波おどりの開催に賛成の意見も多くあったが、そういった声は全く報道されていなかった。阿波おどりの開催について、賛成 0、反対 100 ということはないと思う。もう少し事実を報道してもらいたい。
- ・徳島市議会議員の方を実行委員会にお招きしてご意見を頂くことはできないのか。

(事務局)

- ・実行委員会の委員構成については、委員の皆様でご議論いただければと思う。

(山田委員)

- ・議会の中では立場もあり答弁しにくいかもしれないが、実行委員会の場で議論すれば内容も理解していただけたらと思う。実行委員会に市議会議員が参画することについて、議会に対して要望することはできないのか。

(弘田副実行委員長)

- ・議会の運営に関することもある。こちらから要請するかもしくは議会から参画の話があれば実行委員会で協議させていただきたいと思っている。

(山田委員)

- ・今回から実行委員会の様子をライブ配信しているが、一般の方に議論の内容をしっかりと伝えていくためには市民の代表である議員の方に参画いただけたらと思う。ご検討をいただきたい。

(立川委員)

- ・有料栈敷と無料栈敷の差は何か。有名連が多く観られる、舞台のようにライティングされてきれいに観られるなど、お金を払ってでも有料栈敷に人が向かう理由を考える必要がある。今のままでは、有料栈敷も無料栈敷も特に差がないように思う。
チケット料金が高くなったとしてもそれに見合う栈敷席であることが大事である。
栈敷のあり方を再考する必要がある。
- ・紺屋町の扱いも考える必要がある。山田委員の意見であるおどりロードは大変良いと思う。昔は阿波おどり以外の団体も参加していた。大学のサークルやダンススクール、舞踊団体などに声かけする等、色々な使い方ができる。阿波おどりだけでなく、徳島の民謡、文化も一緒になってやっていけたら一歩踏み込んだ徳島の祭りとして披露できると思うので、検討していただきたい。

(弘田副実行委員長)

- ・観光大使の設置等を含めた情報提供のあり方、紺屋町での阿波おどりの会場を設置するかどうか、市議会議員の実行委員会への参画、有料無料演舞場の差別化などを検討課題とし、2023 阿波おどりの事業計画概要(案)に賛成の方は挙手をお願いします。

～賛成多数～

(弘田副実行委員長)

- ・賛成多数ですので検討課題を含めた上で、2023 阿波おどりの事業計画概要(案)を進めさせていただきます。

【報告事項】

- 報告事項「専門委員会等の設置について」

(事務局説明)

(1) 概要

- ・阿波おどり開催に向けた準備を迅速かつ円滑に進めるため、事業運営委員会を設置しているが、これまでの実行委員会での議論を踏まえ、新たに情報発信を担当する「プロモーション委員会」及び協賛募集を担当する「広告協賛委員会」の設置を検討している。また、次世代を担う若い世代から様々な意見を集めるため、「次世代プロジェクトチーム」の設置も検討している。

(2) 各委員会等において実施する事業

- ・プロモーション委員会では、阿波おどり開催に関する広報のあり方を検討し、効果的に発信を行う。
- ・広告協賛委員会では、協賛内容や募集方法を検討し、協賛を獲得するとともに広告看板やうちわ等、広告媒体の製作を行う。
- ・次世代プロジェクトチームでは、若い世代から実行委員会に対し、様々なアイデアを提案することを目的とする。

(3) 各委員会等の構成委員について

- ・それぞれの役割を踏まえ、事務局にて人選したい。

(事務局)

- ・参考資料は、委員の皆様からいただいたご意見について、現在の検討状況をお示ししている。

(立川委員)

- ・専門委員会の参加者の人選はどうするのか。

(事務局)

- ・現在実行委員会に参画いただいている委員の中から就任をお願いしたいと考えている。

(弘田副実行委員長)

- ・その他阿波おどり全般に関してご意見等がありますか。

(山田委員)

- ・検討課題を考えていただき、大枠で事業計画の概要が承認されたと認識している。
- ・2025年には大阪・関西万博が開催されるが、大阪と徳島は比較的近いので阿波おどりをPRするために万博のキャラクターを夏の阿波おどりに招致するなど県からも働きかけて

いただきたい。そのような企画は可能か。

(利穂委員)

- ・貴重なご意見として、一度持ち帰らせていただきたい。

(杉原委員)

- ・大阪・関西万博関連の招致活動に関して山田委員と同意見である。加えて高知のよさこいも呼び込めれば、双方の観光の発展につながると思う。よさこいはよさこいソーラン等北海道や東北でも行われている。コンテスト等も行われており、優勝者を招いて有料演舞場で踊ってもらう等、先程の意見にもあったように有料演舞場の差別化を図っていかなければいけない。各県の名物が集まるのも面白いと思う。

(中村委員)

- ・船から演舞場を見ていると空席が目立つ。ネーミングライツや広告協賛等行っているが、桟敷にたくさん人が入ると広告協賛も集まりやすいのではないか。
- ・提案としては踊り連がチケットを買ってはどうか。例えば、連員が 100 人の場合は、50 枚買ってもらう。そうすれば桟敷席が埋まる。
吉野川フェスティバルを主催しているが、出演する人にはチケットを買ってもらっている。阿波おどりも出演する人や露店を出している人も盛り上げる必要があると思う。有料演舞場の席が埋まれば、紺屋町演舞場も必要になってくると思う。まずは今ある有料演舞場の席が埋まらなければいけない。
ネーミングライツや広告協賛等も今年はできたが、来年はどうなるかわからない。多く人が入れば協賛金が上がる。収益が見込めれば踊り連にも還元できるようになるのではないか。踊り連の方でも検討してはどうか。桟敷席が埋まらないのは本当に寂しい。

(森浦委員)

- ・ふるさと納税の返礼品に旅館の宿泊券や桟敷のチケットを入れると集客につながると思う。旅館の宿泊券と桟敷のチケットをセットで返礼品とすることを検討いただきたい。

(杉原委員)

- ・踊り連で桟敷のチケットを購入することについて、個人で購入することは難しいと思う。踊り手への負担が増え連を辞めてしまうことによって、踊り手の数が減ってしまうことも考えられる。チケットの購入は、出演する連で負担するべきと思う。連が桟敷のチケットを購入して関係者に配る等の枠を設けてもいいのではないか。
音楽バンドのイベントでは 300 人収容の場合 100 人分はバンドメンバーで捌く等のノルマもあった。自分たちのイベントを行う上で多少負担がかかるのは悪いことではないと

思う。個人に強いるのは負担がかかり過ぎるので、連単位で対処して欲しい。

(山田委員)

- ・各協会より強制的に栈敷のチケットを渡され、連が売れなかった栈敷のチケットを購入していたことが過去にはあった。その時に一番売れなかったのが南内町演舞場だった。栈敷チケットを連で引き受けることをしていた時代もあった。それを連や協会の努力で「総おどり」というイベントをすることにより、その後は100%の集客となった。連が協力して栈敷のチケットを負担することは不可能ではないと思うが、趣旨が違うと思う。仮に栈敷のチケットが予想を超えて売れた場合、連が栈敷のチケットを購入したことで、購入できないお客様が出る可能性がある。チケットの販売方法等も再検討する必要がある。

(立川委員)

- ・私も山田委員と同意見である。子どもの頃は家族で栈敷のチケットを購入して見に行っていた。県内の人が栈敷のチケットを購入するのはそこに魅力があったからと思う。栈敷席に空席が目立つのは県外の人に来ないからではなく、県内の人に来ないから。踊り子が栈敷のチケットを購入して空席を埋めたからといって、魅力が伝わる訳ではない。見に来た人が感動を覚え、魅力を伝えてくれるからこそ広がっていくものだと思う。
- ・連の運営は非常に厳しい。連員から会費をもらって連を運営している。非常に費用がかかる面も多数あり、出演料だけでは賄えない部分も多々ある。さらに連員に負担をかけるとの杉原委員の意見と同様に踊り子が連から離れていくことが危惧される。
- ・「阿波おどり未来へつなぐ実行委員会」という名のとおり、未来へつないでいくにはどうすればいいのか根本から考えていかないといけない。魅力ある栈敷にするためにはどうするかを考えてもらって、そこに踊り子たちが熱意を持って踊り込んでいけるように栈敷を構えていただきたい。踊り子たちの阿波おどりが大好きな気持ち、徳島を大好きな気持ちを汲み取っていただきたいと思う。

【閉会】